

長期欠席・不登校対策のススメ 19号

令和6年10月発行 岡山県教育庁人権教育・生徒指導課

TOPIC

長期欠席・不登校対策は、良い学校・学級風土が基本！

11月は2学期のポイントとなる月の一つであると考えます。

脳科学者の中野信子氏は、いじめが増える時期は6月と11月だと指摘しています(『ヒトは「いじめ」をやめられない』中野信子 小学館新書 2017)。また、小学校における月別の負傷や疾病の件数は11月に多くなっています(独立行政法人日本スポーツ振興センター『学校等の管理下の災害令和4年度データ』)。他にも、教育関係図書には、『11月危機』、『11月クライシス』といった言葉も見られます。「あの学級は落ち着いている」「あの学級が荒れている」といった言い方を聞かありますが、子どもたちが通いたくなる学校・学級風土について再度考えてみましょう。

学校風土(School Climate)への着目

「学校風土とは、教師と児童生徒との学校生活での経験パターンからくるもので、学校の決まり、目標、価値観、人間関係、授業実践、組織体などに影響を与えるもの」とされています。また、良い学校風土は子どもの行動上の課題を減らすだけでなく、学力の向上にもつながることが報告されています。

【引用文献】National School Climate Council, 2007

Thapa A Cohen J Guffey S et al., 2013

Voight A Nation M, 2016

☆学校風土を構成する要素

学習

- ☐ 自分の考えや意見を否定されない
- ☐ 他者から認められていると感じる
- ☐ 成長している実感がある
- ☐ 授業が分かる
- ☐ 授業が楽しい

学校における安全

- ☐ 暴力や器物損壊がない
→ 物理的安全
- ☐ (児童生徒が納得している) 決まりの公平性や一貫性
→ 規律
- ☐ いじめについて気軽に相談ができる体制
- ☐ いじめが起こった時に対応してくれる安心感
→ 心理的安全



- ☐ 掲示物の破損、劣化がない
- ☐ 教師、児童生徒の持ち物の整頓
- ☐ ゴミが散らばった状態の空間
- ☐ 落書きの存在
- ☐ 所有が明確でないスペースの存在
- ☐ 施設のメンテナンス、温度、湿度、照度

環境

- ☐ 教師と児童生徒との関係性
- ☐ 児童生徒同士の関係性
- ☐ 学校と保護者との関係性
- ☐ 学校と地域との関係性
- ☐ 多様性の尊重
- ☐ 同調圧力が強すぎない

対人関係

☆学校風土についての先行研究

【学校における安全】

○多くの児童生徒が学校の決まりを不公平だと感じていると、決まりに従わなくなり、暴力的な言動や非行が増加する。学校内で攻撃的な行動が多いと、特に思春期初期には仲間の行動と一致したいという欲求に動機づけられるため、子どもの行動は時間の経過とともに攻撃的になっていく。決まりの公平性、良い規律を含む学校風土の良さは、いじめや暴力行為の防止につながり、いじめや暴力行為の少なさは安全・安心な良い学校環境につながる。(Bradshaw et al.,2021)

【対人関係】

○良好な教師と児童生徒の関係性は、児童生徒の学業と学校への関わり方の両者の間にプラスの関連をもち、不良な関係性は両者との間にマイナスの関連をもつ。(Roorda et al.,2011)

【学習】

○児童生徒が高い学習意欲をもつような授業とは、実社会にも応用できる意義のある内容を含むものであり、児童生徒の高い学習意欲は教師自身のやりがいや自己効力感にもつながる。(Wang et al.,2013)

【環境】

○学校の物理的環境、レイアウト、整った環境等は、子どもの学習に最大で25%影響を与える。

(Bradshaw et al.,2021)

☆学校風土の「見える化」及び「開かれた学級運営」の重要性

学校の風土の「見える化」を通して、
学校を「みんなが安心して学べる」場所にします。



○学校(学級)評価を用いた客観的な分析

- ・文部科学省の COCOLO プランの3-01に示されている。
- ・教職員の経験年数等や考え方等に左右されず、エビデンスのある分析に基づいた対応方針を立てられる。
- ・教育実践を振り返り、修正する手立てとなる(分析をせずにアンケートを実施しただけでは効果がない。)
- ・学校風土の把握ツールの例として『Q-U/hyper-QU』『i-check』『ASSESS』『シグマ検査』『学校風土調査』が紹介されている。

「客観的な分析」と「日頃から子どもをよく見ている教職員の見立て」どちらも

重要!

○多くの教職員の見立てによる「開かれた学級経営」

- ・教科担任制、学年担任制の良さを生かし、学級担任以外も関わりながら「開かれた学級経営」を行う。
- ・専科の教員、SC、SSW 等が見立てを行う。
- ・管理職、授業改革推進リーダー等が指導・助言を行う。
- ・特別支援教育コーディネーターや特別支援学級担任が、個々の児童生徒の状況についてアセスメントを行う。
- ・通級指導教室、特別支援学校、総合教育センター等に指導・助言を求める。

Mini 研修

学校・学級について「今、気になっていること」、「見直しが必要なこと」について話し合ってみましょう!



「安心して過ごすことのできる学校・学級」だからこそ、子どもは登校することができます。良い学校・学級風土、落ち着いた学級経営は、長期欠席・不登校対策につながっています。11月を迎える前にもう一度、「客観的・主観的に」分析をしてみましょう。